

ママのミニネットコーナー

ミニネット
No.23

床拭きの意味を教える

子どもたちに床拭きを任せると、単に濡れた雑巾で床を濡らしているだけという姿を見かけます。これは子どもが悪いのではなく、床拭きの意味を教えない教師が悪いのです。今回は、マンネリ化しがちな掃除を変えるネタです。

まず、水に絵の具を少し溶いて、色水を作ります。緑や黒などがよいでしょう。そして、その色水を床にまきます。子どもたちは、「ええっ」と驚くはずですよ。

「今からこの床をきれいにします」。そう言って、雑巾をわざと洗わないまま拭く動作を繰り返します。当然、色水は広がるばかりで床はきれいになりません。そこで、「どうしたらこの色を床からなくすことができますか」と聞きます。「雑巾をきれいな水でゆすいで絞ってから拭く」というのが正しい答えです。

バケツに入ったきれいな水で、雑巾をゆすいで絞ることを数回繰り返すと、バケツの水はだんだん色水に変わってきます。この水を見せて、「床拭きというのはね、このように床にある汚れをバケツの水に移すことなんだよ」と説明します。「バケツの水も汚れてきますね。このままではせっかくきれいになった床がまた汚れます。どうしたらよいですか」と聞き、「バケツの水は汚れたら換えないといけない」ことも教えるのです。

床拭きとは、水の力で汚れを床からバケツへ、そして排水溝へ移すこと。床拭きの意味を教えることで、子どもたちの掃除に対する姿勢は大きく変わります。



イラスト | 吉田朋子